

2018年7月25日

地域・都道府県サッカー協会 御中
各種連盟 御中

公益財団法人日本サッカー協会
専務理事 須原 清貴

記録的高温に対する熱中症対策について（緊急連絡）

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、本協会の事業に対し格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る7月20日（金）に夏季大会に向けての連絡文書を発信致しましたが、先週末以降も記録的高温が続いております。気象庁によると1961年の統計開始以来、7月の気温としては最も高い数値が日本各地で記録されており、同庁より7月23日（月）付けで「7月中旬以降の記録的高温と今後の見通しについて」という内容で今後も気温の高い状態が続く見込みとの報道発表がございました。

つきましては、JFAが定めている熱中症対策ガイドラインの遵守につきまして、重ねてお願い致します。連日記録的な猛暑日となっていることから、これまで以上に厳重な警戒が必要であることをご認識ください。選手やスタッフ、観客の皆様の命と健康を守るため、下記のような追加の対策をご検討いただくとともに、会場の気候状況によって大会及び試合の中止や延期もやむなしという場合には、躊躇なく現場でご判断頂きますようお願い致します。

敬具

記

1. 競技形式の見直し

- 試合は気温の高い時間帯を避け、キックオフ時刻を早める又は夕方の時間帯に変更する。なお、夕方の時間帯は雷による影響を十分考慮する。
- 競技会規定に定められた試合時間を短縮する（試合時間を短くする）。
- 試合時間内に勝敗が決定しない場合、延長戦を行わず、PK方式等により次回戦進出チームを決定する。

2. 水分補給

- 現場の状況に合わせて飲水タイムやクーリングプレイクの実施回数を増やし、十分に休息と水分補給ができるようにする。
- 競技場の利用規定に関わらず、ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
- 緊急対応用に氷・スポーツドリンク、経口補水液を十分に準備する。

3. 選手・関係者への暑熱対策

- ベンチを含む十分なスペース(※)にテント等を設置して日射を遮る。
(※)全選手・スタッフが同時に入り、氷や飲料等をおけるスペース
- クーラーがあるロッカールームや諸室を準備する。
- アイスパックやバケツ等に氷や保冷剤で冷やした水で直接身体を冷やすことができる方法をとる(噴霧器の持ち込みも可)。
- 選手ベンチや運営役員の近くに、安全を十分配慮の上、扇風機などを設置する。

4. 医事体制

- 会場に医師、看護師、BLS（一次救命処置）資格保持者のいずれか常駐させる。
- 医師または看護師の配置の数、熱中症対応が可能な救急病院などを事前に確認する。
- 自治体との協議により、消防隊員の待機や医療機関と連携をする。

5. 観戦者

- 観戦者向けの休憩施設や日除けの設備を設定する。
- 観戦者が飲料を購入できる環境（売店や自販機）を設ける。
- 観戦者に対する医療体制を検討する。
- 熱中症への注意喚起と症状が起きた場合の対応について、場内アナウンスで告知を随時行う。

以上

[その他]

【熱中症ガイドラインについて】

http://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf

【熱中症ガイドラインについて<F&Q>】

http://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_faq.pdf

【サッカー活動中の落雷事故の防止策についての指針】

<http://www.jfa.jp/documents/pdf/other/rakurai.pdf>

<本件に関するお問い合わせ>

公益財団法人日本サッカー協会 競技運営部 TEL: 03-3830-1809